

遠隔授業アンケートに対する各学部からのコメント

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">医学部</p>	<p>医学部では、文部科学省が示した新型コロナウイルス感染症蔓延下での教育の指針に準拠しつつ、シラバスに示した授業内容を教授するべく、感染拡大防止と学生及び教職員の健康に配慮し、①資料や課題提示による授業、②リアルタイム配信による授業の2種類の形式で前期授業を実施しました。学生の皆さんに対して十分な説明ができないまま手探り状態でのスタートとなってしまったことは否めませんが、今回の遠隔授業アンケート結果から、学習の理解度は6割以上、満足度は7割を超えた回答が得られました。対面授業の行われた昨年度との満足度の比較では、今年度の遠隔授業で1年生、上級生いずれにおいても「やや不満」「不満」の比率の増加が見られましたが、上級生では「満足」の比率が昨年を上回っていました。「やや不満」「不満」の内容としては、通信設備等に関連する技術的な問題等に加え、「遠隔授業で困ったことについての記述回答欄」に記載されていた、資料配布のみの授業についてその質の問題、成績評価への不安、紙媒体での資料配布がなされないことへの不満などが含まれているものと考えられました。一方で、遠隔授業は「授業が分かりやすい」「資料が見やすい」等の意見もみられました。頂いたご意見につきましては、皆さんの満足度を高めつつ最大限の学習成果が得られるような、より良い方策を模索するための参考とさせていただきます。</p> <p>後期は、講義については感染防止対策を徹底したうえで対面授業を開始しますが、同時に遠隔配信も行い、学生の希望や置かれた状況により、対面授業と遠隔授業のいずれかを選択できる態勢といたします。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">保健学部</p>	<p>保健学部では前期の4月は課題学習にならざるを得ませんでした。5月の連休明けからは遠隔授業を開始し、6月後半に県をまたぐ人の移動の自粛要請が解かれてからは1年生を中心に対面授業を開始いたしました。また、遠隔で行うことが不可能な実習については学年に関係なく対面授業を行い、国家試験関連の重要な科目も必要に応じて対面という方針で参りました。今回の保健学部学生アンケートでは遠隔授業に不満・やや不満と答えた学生の割合は24.5%で4学部の中では低いものの1/4に達している点は憂慮すべきことです。昨年度のアンケートは対面授業対象になりますが、不満・やや不満が1年生で10.9%、上級生で9.6%でしたから、遠隔授業への不満は重大と考えます。加えて、遠隔授業に不満を抱く学生においては、授業の理解度が低く、そのことが成績にも反映しているという事実も重く受け止めなければなりません。そして、不満・成績不良が退学につながりうるという指摘も重視いたしますし、遠隔授業は学生間のつながりを希薄化するという点も退学を助長しかねません。保健学部の退学率は例年高くはありませんが、低学年に集中していることがわかっております。したがって、低学年での対面授業実施はとても重要です。一方、新型コロナへの3密対策で1クラスに2教室を使用しなければならない事情とそれが設備的に可能な教室の不足もあって、遠隔授業を継続実施をせざるを得ないのも事実です。保健学部の後期授業では国家試験受験に必須な臨床実習・演習、4年生の特論関連はすべて対面としましたが、そのため学科によっては低学年学生の後期の対面授業の率が低くなってしまいました。そこで、低学年、特に1年生の対面授業を後期においても保つ目的で、低学年配当科目を再検討して、遠隔を対面に変更する措置を講じることといたしました。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">総合政策学部</p>	<p>春学期は、急遽遠隔授業を実施することになったため、学生のみなさんにとっては、時には不安定な通信環境の中、一人でパソコンやスマホの画面を見ながら講義を受けなくてはならず大変だったかと思います。遠隔授業のアンケートの学習の理解度については、約7割が理解できたということでした。厳しい状況の中、しっかりと授業を受けくれた学生のみなさんの努力に敬意を表したいと思います。一方、遠隔授業の満足度約3割が「やや不満」、「不満」という回答でした。総合政策学部では、新型コロナウイルス感染予防の観点から、秋学期は、1年生の英語、プレミナールとゼミナール以外については、遠隔授業を行うことにしました。個々の教員は、春学期の経験を踏まえ、秋学期の遠隔授業に臨んでいます。また、学部としては、秋学期の遠隔授業のあり方に関する情報共有を行うとともに、春学期の遠隔授業で満足度が高かった授業を担当した教員3人に、それぞれの講義の実施方法や工夫について話をしてもらおう機会を設けました。今後もこのような取り組みを継続し、質の高い授業を提供することにより、遠隔授業の理解度を更に上げ、満足度の改善を図っていききたいと思います。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">外国語学部</p>	<p>調査データを見ると、「通学時間の短縮」が25.3%、「好きな時間に受講できる」が11.8%という結果が見られました。これらはいずれも、「感染の心配がない」の9.1%よりも高いです。三密を徹底して避けることで学生にとって安全な授業環境を提供できることから、外国語学部では、1年生と2年生の語学授業は対面で行うのが最善であると考えています。これにより、調査で学生が表明した語学授業に対する不満に対処できます。また、3年生のキャリア支援への不満に対処するため、キャリアデザインの授業とゼミを対面式にし、毎週のようにアカデミックアドバイザー（ゼミ担当教員）に面談する機会を設けます。この秋、全学生を対象としたオリエンテーションをキャンパスで開催し、すべての学生が質問をしたり、アカデミックアドバイザーが学生と面談する機会を設けました。オンライン授業に意義を見出せなかった学生の大半は、前学期にうまくいかなかったのはITを上手に操れなかったためであり、キャンパス内での授業や対面授業が始まったことで、勉強への意識が高まっていると回答しています。調査データに示されているように、意欲の高い学生はオンライン授業に適応し、この教育方法の利点を認識しているため、今学期もオンデマンド授業は並行して実施されます。ただし、複数のクラスには100人以上の学生が在籍しており、200人以上の学生が在籍しているクラスもあるため、オンライン授業によって教員の作業負担が増大し、学生にとっては学校側の対応に不満が残る可能性があります。外国語学部全体としては、オンライン授業のみを実施するよりも、学生がキャンパスに戻り、教員に質問したり他の学生と交流したりできる環境が整っていることの方が有益であると感じています。</p>